地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2016
9月
No.28

兵庫県立尼崎総合医療センター

［新たな診療取り組み］

ロボット支援腎部分切除術

［診療科紹介］精神科／血液内科

［部門紹介］手術部門
チームワークで安心・安全な手術をサポートします。

● スタッフのつぶやき　● ぶらり～っと病院探訪

部門紹介

手術部門

チームワークで安心・安全な手術をサポートします。

県立尼崎総合医療センター（AGMC）には、3階中央手術部門に18室、1階救急救命センターと5階小児集中治療室に各1室の計20室の手術室があります。3階中央手術部門の手術室は最新鋭の血管造影装置を備えたハイブリッド手術室をはじめ、ロボット手術、ナビゲーション手術、心臓手術、内視鏡手術などの高度先進手術に対応可能な手術室があり、年間1万件以上の手術を行っています。

◉取り組み・抱負

患者さんに安心して手術を受けていただくために、医師・看護師をはじめ多職種のスタッフが協力し、安全かつ効率的な手術室の運営を行っています。

手術室内にはサテライト薬局があり専従の薬剤師が、手術・麻酔に使用する薬剤の管理を行っています。臨床工学技士は、人工心肺装置の操作や、手術支援ロボット、画像支援ナビゲーション手術装置などの最新の医療機器の管理を行っています。放射線技師は、ハイブリッド手術室の血管造影装置の操作、検査技師は脳外科手術や脊椎手術の際の誘発電位検査などを行っています。

それぞれのスタッフが専門能力を発揮し、チームワークで安心・安全な手術をサポートしています。

手術・集中治療担当部長
兼　麻酔科部長
進藤 一男

◉地域へのメッセージ

救急救命センターと総合周産期母子医療センターを有する高度急性期病院の手術部門として、高度専門的な手術と緊急手術・救命救急手術に迅速に対応できるように努めてまいります。

精神科

リエゾンチーム医療で お役に立てるよう頑張っています

当センター精神科の役割は、精神疾患患者さんの重症身体合併症に対して、身体疾患の治療と精神科疾患の治療を円滑に提供していくことです。ER総合診療科と救急集中治療科、各診療科と連携して、身体合併症をもつ精神疾患患者の入院治療を行うことを基本方針としています。精神科病棟には、「合併症を伴う精神疾患」に対応するための許可病床8床を設けており、精神保健福祉法に基づく入院治療を行います。兵庫県における最初の精神科身体合併症専門の病棟として、精神科医療の基幹病院である兵庫県立光風病院をはじめとする精神科医療機関と相互に連携して、精神保健福祉関連機関とともに、精神疾患患者さんの身体合併症に対して高度な医療を提供して精神保健医療福祉の向上に寄与することを目的としています。

5つの特徴

①救命救急センターとの円滑な連携
救命救急センターに入院した重症の患者に対する身体治療と精神科治療の切れ目のない専門的対応

②精神疾患患者の身体的ケアと治療
精神科病院では対応が難しい重症身体合併症で、身体的入院かつ精神科入院の必要のある患者への入院対応

③精神科救急医療システムの補完
救急・重症身体合併症の治療をすることで、兵庫県精神科救急医療システムを補完する

④兵庫県立光風病院など精神科医療機関との連携
身体的治療の必要性がなくなった患者は、速やかに精神科医療機関と密接な連携をとり、精神科診療に円滑に移行できるように運営

⑤コンサルテーション・リエゾン・チーム医療の実践
身体疾患に伴う種々の心理的問題をチームで治療、また、緩和ケアや透析・移植にともなう種々の心理学的問題もサポート

血液内科

日進月歩の血液疾患の診断・治療に対応します

血液疾患の診断・治療は、日々進歩しております。新薬の開発により、予後が大幅に改善している疾患も多数あります。それらを常に把握し、患者様の生活の質を考慮しつつ、最善の治療を心掛けて診療を行っております。新病院より無菌病棟が完成し、骨髄バンクおよび臍帯血バンクの移植認定施設となりました。各科医師、看護師、薬剤師、栄養師、放射線科技師、検査技師、リハビリ技師、歯科衛生師など、多くのスタッフの協力の元、治療関連毒性を軽減し、移植の成功を目指して、治療を行っております。さらに、全国的に不足している血液内科医を一人でも多く輩出できるように努力します。

血液内科科長　渡邊 光正

日本内科学会総合専門医・指導医／日本血液学会専門医
日本造血幹細胞移植学会造血細胞移植認定医
日本骨髄バンク移植調整医師
京都大学医学博士／京都大学医学部臨床准教授

後列左から：坂口医師、見野医師、塚田医師
前列左から：吉田リエゾンナース、柳瀬PSW、水井PSW

副院長（精神医療担当）
兼 精神科科長

見野 耕一

精神保健指定医／精神保健判定医
日本精神神経学会精神科専門医･指導医
日本総合病院精神医学会専門医･指導医
日本サイコオンコロジー学会
登録精神腫瘍医
認知症サポート医

後列左から：渡邊医師、為金医師
前列左から：木場医師、前迫医師

対象とする症状や疾患

対象症状：

貧血、多血、血小板数の異常、白血球数および種類の異常、リンパ節腫脹、脾腫、紫斑、粘膜出血　など

対象疾患：

●血液悪性疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、成人T細胞白血病／リンパ腫、真性多血症、本態性血小板血症、骨髄線維症　など

●血液良性疾患

特発性血小板減少性紫斑病、再生不良性貧血、溶血性貧血、血栓性血小板減少性紫斑病、
先天性･後天性血友病　など

最先端医療

泌尿器科

▶▶▶ロボット手術：第2弾

ロボット支援腎部分切除術

小さな腎がんに対する ロボット支援腎部分切除術を開始します。

✚ 小さな腎がんに対する手術

4cm未満の小さな腎がんに対する腎部分切除術は根治的腎摘除術と比較し、腎機能温存のみならず全生存も改善させることが示されています。このため、最新の臨床ガイドラインでは小さな腎がんに対する標準治療は腎部分切除術であることが示されています。

✚ 腎部分切除術

腎部分切除術は腎にできた腫瘍のみを切除し正常部分を温存する術式で、非常に難易度の高い手術です（図1）。それは、腎臓の血流を一時的に遮断し（腎阻血）、出来るだけ短時間で腫瘍部分を切除し、その欠損部分を糸で縫い合わせる必要があるからです。腎血流の遮断時間（腎阻血時間）が長くなればなるほど腎臓の機能は低下してしまうため、迅速かつ確実な切除と縫合操作が要求されます。われわれも以前から積極的に腎部分切除術に取り組んでまいりました。症例により、開腹あるいはより侵襲の少ない腹腔鏡による腎部分切除術を施行し、良好な成績を得て参りました。今回さらに低侵襲かつ安全性の高い腎部分切除術を目指し、ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術（Robot-assisted partial nephrectomy; RAPN）を開始します。

✚ なぜ、ロボット支援手術なのか？

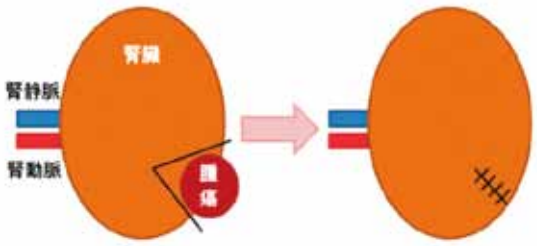
腹腔鏡手術は開腹手術に比べてお腹を大きく切開する必要がないのが最大のメリットですが、自由度の低い鉗子で切除と縫合を行うため、時に手術を安全に施行できないことがあります。ロボット支援手術は腹腔鏡手術の進化版ですが、高解像度の3D画像を見ながら人間の手の関節以上の高い関節自由度を持つロボット手術用の鉗子を用いて実施するため、精密な切開や縫合を素早く行うことが可能です（図2）。RAPNでは腫瘍の切除および切除部分の縫合を従来の開腹手術以上に正確かつ迅速に行うことが可能で、癌の根治性を犠牲にすることなく腎阻血時間を短縮することができ、腎機能の温存における良好な結果が得られています。またRAPNは従来の腹腔鏡下手術と比較しますと、適応となる症例の幅が広く、術中、術後の合併症も少ないことが証明されています。

ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術は2016年4月より保険適用となりました。

2016年4月よりロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術は保険適用となりました。皆さんの治療選択の一助となれば幸いです。

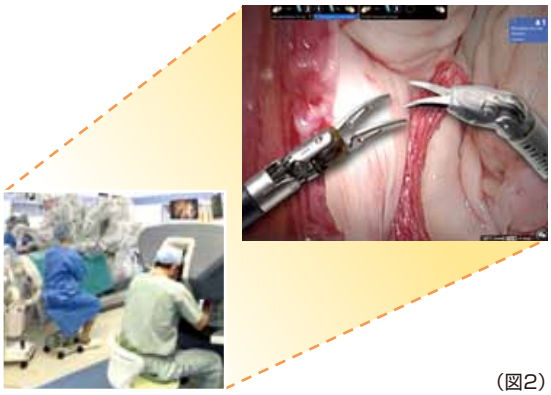
AGMC 新たな診療取り組み 【ロボット支援腎部分切除術】

［腎部分切除術］

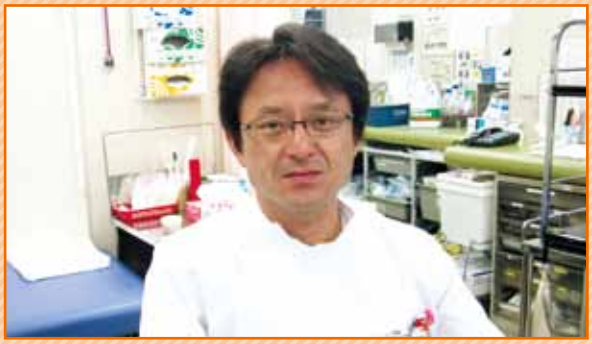


1）腎血流を一時停止させ切除　　2）腎の縫合

（図1）



（図2）



山田 裕二医師

後列左から：桑原医師、白石医師、坂本医師
前列左から：山道医師、山田医師、村蒔医師

スタッフのつぶやき

子どもたちのもう一人の先生！治療も勉強も応援します！

病院の中の学校、院内学級

院内学級：小野山 千賀子、山口 保樹

こんにちは！　院内学級とは、病院内にあるクラスのことです。

私たちは1日の大半を病院で勤務していますが、実は病院職員ではありません。この病院の校区の学校、中学校は中央中学校、小学校は難波の梅小学校の教職員です。なので、朝は学校に出勤して病院へ通勤しています。授業終了後は再び学校へ帰ります。長期入院で学校に通えない子ども達の変わりに、教師の方が病院に出向くと言うシステムです。

院内学級と言う言葉を初めて聞く方も多いと思いますが、実は15年程前は、市内に県立尼崎、県立塚口、関西労災病院の3ヶ所にありました。しかし、今では市内唯一の院内学級となりました。私たちが日々、気をつけていることは、子ども達のその日の様子、病院スタッフとの連携です。そして、長期入院をしている子ども達が病気が良くなった時、学習面での不安な気持ちを持たないようにサポートしています。

ぶらり～っと病院探訪

闘病中の患者さんに癒しとくつろぎを提　供

明るくておしゃれな空間「ヘアサロン こもれび」

今回は、尼崎総合医療センター開院と同じ2015年7月に院内にオープンされた「ヘアサロン こもれび」を訪れてみました。

病院内と街のヘアサロンで違う点は、シャンプー・カット・カラーリング・パーマという一般的なサービス以外にも、病室への出張カットや、ケア帽子、医療用ウィッグの取り扱い、またメーカー問わずウィッグの調整などを行っておられることだそうです。

サロンでは、点滴スタンドや車椅子でも安心して来店することができ、また、室内はカーテンで仕切ることでプライベートなスペースを確保することを心がけておられ、治療中の患者さんも安心して利用できます。また、外見支援を通じて、治療中の患者さんの気持ちを少しでも癒せるように、脱毛時の眉毛の描き方の講習や頭皮ケア、爪に優しいマニキュアのご紹介、「まつ毛・眉毛美容液」・トリートメントタイプの「白髪染め」なども取り扱っておられ、闘病中の患者さんでも、明るくて綺麗な空間でおしゃれを楽しめそうです。

スタッフの方も、「今後も患者さんが、病院内である事を忘れてくつろげる空間を提供していきたい」と語っておられました。

患者さんだけでなく、ご家族の方々にもご利用いただき、好評のようです。是非、待ち時間を利用して気軽にご利用してみてください**（営業時間：平日の朝9時～夕方6時。祝日も営業）**。

編集後記

うだるような暑さが続いていますが、皆さんの体調管理は大丈夫でしょうか？当院は開院1周年を迎えて、ホームページの充実にも力を入れています。現在は、さらに見やすいトップページを考案したり各科のコンテンツを見直したりしています。ご要望の多かったフェイスブックとのリンクも稼働し始め、今後さらに情報発信ができれば、と考えております。もし、お気づきの点がありましたら何なりと広報のメンバーにご連絡ください。　（I.U.）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社